

三身事。普賢經云、へ仏の三種の身は方等より生ず。是れ大法印なり、涅槃海を印す。此の如き海中より能く三種の仏の清浄の身を生ず。此の三種の身は人天の福田、応供の中の最なり云云。三身者、一法身如来・二報身如来・三応身如来。此三身如来をば一切の諸仏必あひぐす。譬へば月の体は法身、月の光は報身、月の影は応身にたとう。一の月に三のことわりあり、一仏に三身の徳まします。

この五眼・三身の法門は法華経より外には全く候はず。故に天台大師云、へ仏は三世に於て等しく三身有り、諸教の中に於て之を秘して伝えず云云。此釈の中に「於諸教中」とかかれて候は、華嚴・方等・般若のみならず、法華経より外は一切経なり。「秘之不伝」とかかれて候は、法華経の寿命品より外は一切経には教主釈尊秘て説給はずとなり。されば画像・木像の仏の開眼供養は法華経・天台宗にかぎるべし。其上一念三千の法門と申は三種の世間よりをこれり。三種の世間と申は、一には衆生世間、二には五陰世間、三には国土世間なり。前の二は且くへ之を置く。第三の国土世間と申は草木世間なり。草木世間と申は五色の多のぐは草木なり、画像これより起る。木と申は木像是より出来す。此画・木に魂魄と申神を入るる事は法華経の力なり。天台大師のさととり也。此法門は衆生にて申せば即身成仏といはれ、画・木にて申せば草木成仏と申なり。「止観明静なる前代いまだきかず」とかかれて候と、「無情仏性惑耳驚心」等とのべられて候は是也。此法門は前代になき上、後代にも又あるべからず。設ひ出来せば此法門を偷盜せるなるべし。然に天台以後二百余年の後、善無畏・金剛智・不空等、大日経に真言宗と申す宗をかまへて、仏説の大日経等にはなかりしを、法華経・天台の釈を盗入て真言宗の